

がん患者コミュニティサロン通信



+日本赤十字社 秋田赤十字病院 がん相談支援センター
〒010-1495 秋田市上北手猿田字苗代沢 222-1
☎ 018-829-5000 (内線 2182)

県内にも春を告げる桜開花の季節を迎えました。春のポカポカ陽気と柔らかな空気を体中に感じながら、穏やかな笑顔になるような気がします。みなさまいかがお過ごしでしょうか。

4月は新しい年のもう一つのスタートラインとも言える月です。心新たにサロンの会がさらに充実した一年でありたいと願っています。



～2月・3月のサロンの会より～

2月は13名、3月は14名の方々、そして職員さんの方々がサロンの会に参加いただきました。毎回初参加者の方をお迎えでき、大変うれしく思います。

<参加者の方の声から>

定期的検査と受診について、検査終了後、その結果について「後日電話連絡をします」ということがあるが、不安を抱えたまま帰宅し、連絡を待つ時間は長く感じるもの。そのことのほうが辛い。待ち時間が長くても主治医から当日に結果を聞きたいと思うが、みなさんはどうですか？というお話がありました。

職員さんより医師はおそらく長時間待たせることへの配慮や気遣いがあったのでは。その思いの行き違いがあったと思う。とのアドバイスがありました。主治医とのコミュニケーションにおいて、双方の意思疎通を一致させるためには自分の思いを伝えることも必要であり、そのことで了解・納得という展開につながるのではないだろうか。また、医療者側から不安軽減のための一言をかけてもらえるだけで安心して結果待ちにつながるのでは。と感じました。

<3月のサロンの会>では、新年度を迎えるにあたって「年間行事について」「会の運営について」話し合いをしました。会の進行・司会・会のあり方・サロン通信・会場の準備と後片付けなど、

具体的事項について意見を出し合いました。様々な会則で縛らないほうが気負わずに参加しやすいのではないだろうか。という意見でまとまりました。この会が発足時から大事にしてきた人と人とのつながり、柔らかな雰囲気、自由な語り合いの場を大切に、現状の運営の下、多くの方々が身近に感じられる会を目指していきたいと思えます。年間行事については引き続き話し合っていきたいと思えます。みなさまの声をどんどんお寄せ下さい。お待ちしております。

< 2月のレクチャー >

～認知症について～

2月のサロンの会では「認知症」について、赤十字病院・認知症認定看護師の桜庭さんをお迎えし、「認知症の方との関わりについて」学びました。認知症認定看護師は県内で25人とのことまた、赤十字病院には認知症の病棟はないとのことでした。今回は参加者からの事例を元に、認知症とどう関わったらいいのか、桜庭看護師さんからアドバイスをいただきました。

<ケース1> 一昨年89歳で亡くなった実母との関わりについて、元々、自分に対して躰が厳しく現実以上のことを求める人だった。そして、自分の結婚が母の意に反していたこともあり、その後、確執につながったという経過がある。自分のがん患者となり母を介護できなくなると感情のコントロールができず暴言・暴力が始まった。介護度は「要支援」、物忘れや認知機能に問題なく、病院からは認知症ではないと言われたが、行動の悪化とともに自分自身がトラウマに陥るほどだった。このような状態をどう捉えたらいいのでしょうか。



<ケース2> お姑さんとの関わりについて。主人が亡くなったのちに同居。当初は問題なかったが、自分の身内の不幸などで介護が十分できなくなり一時的に施設入所。その後、転倒し骨折、夜間の不穏状態がひどくなり、眠剤の効果もなくなった。幻覚や失禁、特に便失禁は大変でした。自宅での介護の困難さと、責任ある立場での仕事の両立に難しさを経験しました。



お二人のケースから桜庭看護師さんよりアドバイスをいただきました。

ケース1の方は、認知症ではなく、長年の母娘関係の溝や、苦勞して生きてきたお母さんの気性など、親子故にダイレクトに行動につながってしまったのではと思われる。ケース2の方は、認知症の治療をしているかがポイントとなる。排泄に関する行動ではトイレ以外の場所で便をこすってしまう動作がある。この「こする」動作は、①便が出た②おしりについている③こするという一連の行動となる。「なぜ、トイレにいけないのか」ということを考えてあげることも必要。関わりかたでは、動作やしぐさなどのサインを観察してトイレへ促すなど、その方のパターンの見極めが大切と思われる。

参加者より、認知症の家族が手術方向になるが、病室の規制や家族の付き添いについてどうしたらいいのでしょうか。との問いに、『認知症の患者さんは、夕方から消燈時間帯に落ち着かないケースが多く、また、環境の変化などもあり昼夜逆転傾向がみられたりする』とのお話がありました。今後、再度認知症について学んでいきたいと思えます。

<ちょこっとメモ コーナー>

認知症とは? 脳や体の病気が原因となって記憶・判断力などの認知機能がうまく働かなくなり、普通の生活が送れなくなる状態です。予防は早めの対策が重要。物忘れが増えるなど、おかしいと感じることがあったら、早めに医療機関に相談しましょう。最近では、早期に発見して適切な治療を行うことで、その進行を遅らせたり症状を改善させられることがわかっています。さらには、認知症は発症前に予防することが大事。そのカギは、なんと食事・運動・社交・生活などの生活習慣にあり、暮らしのひと工夫で、どんどん脳が活性化するそうです！認知症予防を实践するうえで大切なのは、前向きな気持ちだそうです。

